

第8回 江戸川総合人生大学祭

学び・ふれあい・豊かな心
～笑顔ではじまる”人との和”～



北野学長講演



座談会「学科長を囲んで」



ステージに大拍手

第8回江戸川総合人生大学祭は、2013年7月27日(土)午前10時から16時まで、タワーホール船堀に於いて行われた。在校生は全員参加。同窓会の先輩たちの参加もあり、酷暑のなか、753名もの外部来場者を得て大盛況であった。会場は、1階メインステージ、展示・体験コーナー、3階のおやすみ処の3か所。全てが関係者の手作りである。

●メインステージ

鈴木町枝実行委員長の開会挨拶で始まり、北野大学長の家族のエピソード等ユーモアを交えた講演があり、午後からは、多田正見江戸川区長挨拶、座談会「学科長を囲んで」では4人の学科長からのあつい思いが語られた。

学生及び卒業生の考えた演し物は、お客様に楽しんで頂けるように趣向が凝らされていた。海外諸国の民族衣装を纏ったの Bon Festival Dance、練習を積んだ南京玉すだれ、工夫を凝らした江戸ちゃん音頭、美しい衣装が印象的なインド・ポリウッドダンス、ギターの伴奏での歌やコーラスなど、それぞれに楽しめ、聴衆は熱心に拍手をしたり、笑ったり、歌ったり、足踏みしたり・・・。

最後に「手のひらを太陽に」をお客様も含め全員一緒になって歌い、大拍手のうちにすべてのスケジュールを無事終了した。この日のために必死に考え、汗を流した関係者たちにとって、この大合唱は達成感をおつく感じさせた瞬間だった。

●展示・体験コーナー

コーナーはパーテーションで仕切り、各クラスにブースが割り当てられた。展示・体験コーナーの壁には一年間の勉強の成果である写真や表が所狭しと貼られ、造花や折り紙などで美しく飾りつけられた。体験コーナーは、各学科クラスの知恵を絞った工夫の場所。インド数学、世界のボディランゲージ、エコ工作、パズル、ハンドトリートメント、計算機を使つての脳年齢測定、折り紙やお絵かき、車椅子体験など盛りだくさんで、興味深げに各コーナーを楽しむ家族連れのお客様で賑わった。

●おやすみ処 よってこ

3階には同窓会諸兄姉のコーナー。茶菓のサービスがあり、パネルにはこの一年間の同窓会の活躍の写真が紹介されている。琴と尺八の合奏、日本舞踊、朗読、全員参加の盆踊りなど、舞台と観客が一体となった親しみあふれるコーナーだった。

●スタンプラリー

場内3か所の捺印所で、簡単なクイズに答え、プログラムにスタンプを押した全員に景品が貰える仕組み。子供たちも親たちもみんな嬉しそうにリボンで包んだ袋を貰っていた。中身は何だったのかな？

大会実行委員の万全の準備、メインステージの分刻みのスケジュール進行、前日の汗を流しての会場設営・真剣なりハーサル等、クラスの力を結集する努力が新鮮に思えた。

取材：菅谷洋子



手あそびうた



えどちゃん音頭



パズルに挑戦



車いす体験



世界のボディランゲージ



おやすみ処「よってこ」

編集後記

7年後に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることになりました。56年ぶりの開催ですので、若いころを思い出される方と初めての経験に胸を膨らませている方がおられると思います。このオリンピック・パラリンピックが東日本の復興の追い風になり、成功裏に開催されることを期待したいと思います。さて、我々8期生は今回の編集で9期生に引き継ぎます。未熟な我々が何とかやってこられたのは、皆様のご指導・ご支援のおかげだと深く感謝申し上げます。次回からの9期生、10期生の編集にご期待ください。

編集長 土井 芳夫(国際8期)

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

- [8期生] 大塚恭子、鳥羽山晟(まち) 寺田佳子、土井芳夫(国) 大西奈津女、佐久間鐵雄(子) 石井房江、八武崎美子(介)
- [9期生] 犬飼キヨ子、衣川章嗣(まち) 菅谷洋子、峯岸和英(国) 黒山三千代、穴戸チ子、水野真紀子(子) 榎本清一、笹田直子(介)



No.24

発行日 / 2013.11.1
創刊日 / 2007.4.10

EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

【9期生クラス座談会】一年次を振り返って大いに語る



新川さくら館[写真:介護9期 榎本清一]

10期生の皆様、ご入学おめでとうございます

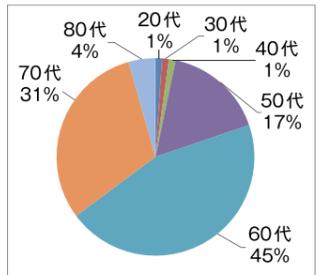
10月2日(水) 篠崎文化プラザにて入学式が行われ、91名の方が江戸川総合人生大学に入学されました。誠にありがとうございます。北野学長からは、教育と教養についてのウイットに富んだ祝辞を頂戴し、多田区長からは、本学創設時のエピソードを織り込んだ激励のお言葉をいただきました。2年間の学びと体験を通して、ともに成長し、実りのある学生生活を送りましょう。



北野学長による祝辞



多田区長から激励のお言葉



10期生の年齢構成



地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。(＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

発行日 / 2013年(平成25年)11月1日

発行 / 江戸川総合人生大学

〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ

人と地域をつなぐ情報紙

[9期生 クラス座談会]

一年次の経験・思い出と、二年次への期待と不安

クラスのみんなで大いに語り合いました。

江戸川まちづくり学科

「種探し」から手作り講座まで

梅雨の合間のパーベキューの懇親会は全員が集合、みんなの協力で楽しい集いになりました。夢中だった一年も終わってみれば感慨もひとしおです。学ぶにつれ波紋が広がるように、江戸川区の全体が見え、愛着も増してきました。

えどがわの魅力や課題の「種探し」は、地域に出るの授業が始まりました。現地訪問し、その活動を見て、聞いて、学び、参加する。また、ワークショップによる授業では意見交換を行い、更に理解を深めていきます。初体験の戸惑いもやがて感動や感激になりました。それらの中で何かを気づき発見して、資源や問題の解決策や活用策を提案することが、一年次の課題です。

種探しはグループ毎に、「小松菜」「緑化と景観」「親水公園」「歳時記」と具体化されていきました。次に「手作りえどがわ講座」発表に向けて、グループ毎のまち歩きが続き、調査研究のための時間の調整、打ち合わせの場所を探し、試行錯誤しながら、まとめて苦労しました。その資料は幅広く膨大で、発表はほんの一部です。パソコン講習で習ったパワーポイントで発表できたことは、新しい事への挑戦でとても有意義でした。

30回の授業内容は、人生大学の社会貢献へのまなびの精神に基づいています。時間の確保、グループ編成、テーマなどカリキュラムに多少無理があり苦労しました。他方では自分の意見を伝え、他人の意見を聞けるようになりました。そして仲間意識ができ、視野が広まりました。

志半ばで、余儀なく自己都合で退学された方が出たことは残念です。

二年次は市民活動を含め、地域貢献についてどのようにかわるか、望みを持ちながら進んでいきたいと、皆で話しました。



取材：犬飼キヨ子、衣川章嗣

国際コミュニティ学科

全員揃って卒業するぞ！

海外旅行が好き、外国の友人がいる、海外で仕事・生活をしてきた、等々メンバーの入学の動機は様々です。昨年10月の本科の授業開始早々に、「日本人のルーツは複雑で、韓国人や中国人よりも純血度が低い」というDNA解析の結果もあることを知らされ、知的で新鮮な刺激と驚きを感じながらのスタートだったことは、メンバー皆に共通しています。

後半はフィールドワークという、耳慣れないテーマの授業の連続でした。諸先生方の実体験に基づく様々な分野の興味深い講義と共に、自分たちも異文化や多文化を実感するという、新しい経験をすることができました。

これらの専門科目と並行して「えどがわ入門」、「カウンセリングの基礎」等々の共通基礎科目も受講しました。自分が長年住んでいる地元のことを何にも知らなかった、と驚かされ、また、なんとなく知っているつもりが実は表面の知識だったことを知らされることの連続でした。

個人の研究発表は、ほとんどのメンバーにとって初めてのとても不安な経験でした。講義・フィールドワークから得たヒントや、従来からの問題意識を思い返して各自のテーマを設定し、それぞれに立派な発表をすることが出来た、と自負しています。

このクラスは、個性的でまとまりが悪そうという印象が始めはありました。フィールドワーク、そして大学祭を通じて結束の強いクラスに大変身しました。二年次という新たなスタートに向けた私達の合言葉は、「全員揃って卒業するぞ！」です。

二年次には40時間の社会活動体験が始まります。何が出来るか？何をやるか？とても心配ですが、「ここまで何とかやってこれたんだから、頑張るっじゃない！」



取材：菅谷洋子、峯岸和英

子ども・子育て応援学科

納得・充実・有意義な一年間

クラス全員参加の座談会で感想を自由に語り合いました。クラスでは今までの職場関係とは全く異なり、利害関係のない人とのつながりができ、いろいろな年代の方との考え方、意見の違いを知る事ができました。

このクラスには子育て中のお母さんもいて、「入学したところの自分と今の自分が変わりました。いらいらする事が少なくなり、穏やかに余裕をもって接している自分を発見できました」と話されました。

この学科は、子育て中のお父さんお母さんに聞いてほしい講義が沢山あります。もし保育室があれば、それらの方も参加できるのではないかと思います。

小学校での学習支援、障がいのある子ども達と生き活きたふれあいができた事、現代社会で苦悩する若者との接し方等、貴重な体験をする事ができました。

ボランティアについては、入学当初は漠然としていたものの、何が望まれているかを考えながら、現場での見学や実習を重ねました。その結果、社会や地域に貢献できるやりがいのある活動である事が実感できました。

選択科目の授業では「傾聴」の大切さを学ぶ事ができました。どの先生方の授業もとても楽しく、納得、充実、有意義な一年間でした。

授業後お昼をとりながら、フィールドワークの事等を話し合ったことは大きな活力になりました。

今迄学んだ事を実践し、目標に向かって皆で協力し合える二年次にすることを願う座談会を終えました。



取材：黒山三千代、宍戸チイ子、水野真紀子

介護・福祉学科

志望理由はいろいろ

介護・福祉学科の座談会は大学祭控え室で実施しました。学科の志望理由は各自いろいろ。

A氏の仕事は学校所在ビルでのパートです、「介護・福祉学科があることを知っていたので入学しました。」

B氏、「インターネットで学校を知り、まちづくりを志望したが、日程の都合で介護・福祉学科に決めました。」

C氏、「独居老人である70歳の自分が、90歳の母を介護出来るようにこの学科で学ぶことにしました。」

D氏、「町会の役員を務める主人の勧めで入学しました。国際が満員、子どもとの係わりが不得手など、消去法で介護・福祉学科を選びました。」

E氏、「昨年の大学祭を見学して自分には介護関係についての知識が少ないと思い選びました。」

F氏、「CS放送を観て学校を知り、休業中なので勉強をしようと思いました。」

次に、一年間勉強をした感想を聞きました。C氏、「認知症の母を介護しながら勉強し、時間の許す時は他学科の聴講をして自分の幅を広げる努力をしました。」

F氏は、「仕事が介護タクシーなので、介護の一から勉強しようと考えました。」

全体の感想は、最初は介護の技術などを教えて頂けるのかと思っていましたが、授業の殆どが講義中心で予想と違うものでした。

最後に、二年次に向けて各自の考えを聞きました。二年次のボランティアを体験した後に自分の向き、不向きを見極めて、何をやるかを決めたい。

他の学科についても学びたい、との意見が多く出されました。



取材：榎本清一、笹田直子

同窓会の窓



2年前に江戸川総合人生大学同窓会会長を拝命し、卒業生のみならず在校生や一般の区民の皆様にも見える形で活動する事を念頭にクラス幹事の皆さんと共に歩んでまいりました。クラス幹事の皆さんをはじめ、同窓会会員、人生大学関連の皆さんに感謝申し上げます。

現在同窓会会員は450名を越え、人生大学ボランティア連絡会の40を超える卒業生グループが地域で活躍をしております。その卒業生グループの支援や自主企画のイベントを通じ、同窓会の認知度を上げる努力をし、一定の成果を上げております。人生大学の特徴は「2年間の学びの成果を地域に活かしてい

く」ことですので、在学生との交流や2年後の実践の部分で地域貢献へいかに対応するかが同窓会の課題であります。

今後は卒業生パワーで人生大学の発展にいかに関与するか、具体的に対応していく事が重要であると認識しております。その為にも行政との共済協働を図り、10年目を迎えた人生大学のあるべき姿を構築していきたいものです。

前同窓会会長 川瀬 隆弘 (国際4期)
同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>
人大ボラ連メールアドレス jindaiboraren@yahoo.co.jp

えどがわエコセンターより

(作家)椎名誠氏講演会！“いつまで私たちの飲める水があるのか”

開催日時：平成25年11月15日(金)午後7時～8時30分 午後6時30分開場
会場：タワーホール船堀小ホール(5F)
入場料：無料
申込対象：高校生以上 250名(申し込み順)
申込方法：電話またはFAXでお申込みください。FAXの場合は、氏名、住所、電話番号、FAX番号を明記してください。

申込・問い合わせ先：えどがわエコセンター 電話：5659-1651 FAX：5659-1677

